

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 5 月 11 日

評価対象事業	教育	-	17	史跡環境整備事業				☐ 法定受託事務
所管課	文化財課				評価者	文化財課担当課長 鈴木 庸一郎		
一般	会計	款	55	項	20	目	10	
総合計画上の位置付け	分野名	歴史環境			施策の方針名		文化財の保護	

1 事業の目的

対象	国等指定史跡	意図	国等指定史跡の公有地化及び整備の実施により、保護する。
効果	国等指定史跡を適切に保存し、公開活用を進める。		

2 事業工程と運営資源配分

☒ 単年度事業
 ☒ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度）
 ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	指定史跡の公開及び維持管理、史跡北条氏常盤亭跡の崩落対策工事（～R8）、史跡浄光明寺境内・冷泉為相墓の崩落対策実施設計	指定史跡の公開及び維持管理、史跡和賀江嶋現況把握調査、史跡北条氏常盤亭跡の崩落対策工事、史跡浄光明寺境内・冷泉為相墓の崩落対策工事、史跡北条氏常盤亭跡土地買収	指定史跡の公開及び維持管理、史跡東勝寺跡の崩落対策調査
予算額（千円）	205,535	412,053	
国県支出金	96,099	297,890	
地方債	58,600	56,200	
その他	152	152	
一般財源	50,684	57,811	0
当初人員配置数	3.9	3.5	0.0
人件費（千円）	33,294	30,891	0
事業実績	指定史跡の公開及び維持管理、史跡北条氏常盤亭跡の崩落対策工事、史跡浄光明寺境内・冷泉為相墓の崩落対策実施設計		
決算額（千円）	108,153		
国県支出金	15,744		
地方債	39,400		
その他	104		
一般財源	52,905	0	0
人員配置実績数	3.9	0.0	0.0
人件費（千円）	32,304	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	安全対策工事及び災害復旧業務の実施件数（件）	箇所	1	⇒	1		
	実績につながる活動	指定史跡の公開活用及び維持管理業務、崩落対策工事、災害復旧事業				52,800		
活2	指標名	公有地化対象史跡の公有地の割合	%	61.4	↗	61.4		
	実績につながる活動	史跡買収事業				0		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	史跡の維持管理事業、防災・安全対策を予定どおり実施し現在公開中の史跡について公開を継続するとともに、新たに大町釈迦堂口遺跡を期間限定で公開した。引き続き、史跡指定地の安全対策及び整備を実施し、完了したところから公開を進めていく必要がある。 令和7年度は史跡買収を実施しなかったため公有地の割合は増えていない。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果 指標No （最大3つ）
					実績			
成1	史跡の維持管理により一般公開を継続している史跡数	箇所	32	↗	33			1 2

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	成果指標1について、史跡の公開を進めたことにより高い水準を維持できている。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	史跡の公有地化を進め、防災・安全対策、整備及び維持管理を行って公開することにより、市民に市内の史跡に親しむ機会を提供することができ、成果につながっている。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	■ 増えている	□ 変わらない	□ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	■ 市	□ 国・県	□ 民間事業者 □ なし
	有効性	事業の成果	□ 十分に出ている	■ 概ね出ている	□ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	□ ある	■ なし	
		関連・類似事業との統合	□ できる	■ できない	
	公平性	受益者負担	□ 導入済	□ 導入予定	■ 導入できない
方向性	評価実施年度の方向性 ⇒		評価実施翌年度以降の方向性		
	事業内容の方向性	■ 事業内容は現状通り	■ ① 事業内容は現状通りとする		
		□ 事業内容は見直し済 ⇒	□ ② 事業内容は見直す	→ □ 拡大 □ 縮小 □ その他	
		□ 事業を休止又は廃止済	□ ③ 事業は休止又は廃止する		
		□ 他事業と統合済	□ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する →		事業へ統合
方向性	予算規模の方向性	■ 予算規模は現状維持	■ ① 予算規模は現状維持とする		
		□ 予算規模は拡大済 ⇒	□ ② 予算規模は拡大する		
		□ 予算規模を縮小済	□ ③ 予算規模は縮小する		

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
総評		概ね計画通りに進んでいる。 新たな史跡の公開も行うことができたほか、予定していた史跡の崩落対策工事や維持管理についても滞りなく進めることができ、史跡の保護につながっている。			上位施策への寄与度 A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項		国・県・市指定史跡名勝天然記念物の件数							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	74	19	15	1	41	29	16	12	9
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		文化財の整備や管理、調整等に必要な業務量は文化財の数に比例するため、自治体の人口規模や財政規模ではなく、指定文化財の件数を指標として、必要な経費を確保し、事務体制を整備する必要がある。							